

【資料】

平成27年度 林業研究・技術開発推進北海道ブロック会議育種分科会
 特定母樹等普及促進会議

上田 雄介^{*,1}

「平成27年度林業研究・技術開発推進北海道ブロック会議育種分科会」及び「平成27年度特定母樹等普及促進会議」は、9月25日に札幌市内のかでる2・7において開催された。会議には、林野庁、北海道森林管理局、北海道庁、北海道立総合研究機構林業試験場、同林産試験場、森林総研北海道支所及び関係機関が参加して行われた。会議の概要は次のとおりである。

育種分科会

(1) 育種事業の最近の動向

林野庁から林木育種事業を巡る最近の動向として、マツノサイセンチュウ抵抗性品種開発技術高度化事業・苗木安定供給推進事業・次世代林業基盤づくり交付金・花粉発生源対策の推進についての説明があった。

特定母樹等普及促進会議

(1) 特定母樹の普及について

林木育種センターより、今年度より特定母樹の普及・促進のため昨年まで行っていた高速育種運営会議を発展的に解消し、新たに特定母樹等普及促進会議が設置されたことの説明があった。

(2) 特定母樹の増殖について

林野庁より、特定母樹の指定と基本方針の策定状況と特定母樹の応募要項について説明があった。

(3) 北海道育種基本区における特定母樹及び次世代精英樹（エリートツリー）の開発について

北海道育種場からは北海道育種基本区における特定母樹の取り組み状況及び第2世代精英樹候補木と優良木の選抜状況について説明があった。また、北海道庁からはクリーンラーチの増産推進事業及び第2世代精英樹の採種園造成についての説明があった。

(4) 北海道育種基本区における平成26年度林木育種事業実施結果及び平成27年度計画

北海道育種場からは林木育種事業の概要として、精英樹の選抜状況、採種園の造成・廃止及び管理、次代検定林調査、育種種子の生産と利用状況等について、それぞれ平成26年度の実績と平成27年度の計画を報告。また、平成27年春期の国有林採種園及び道有林採種園の着花（果）状況について報告があった。

(5) 平成27年度育種事業・研究の概要と成果トピックス

林木育種センターから、関東育種基本区における特定母樹等普及促進会議及び優良品種・技術評価委員会の概要が報告された。また、成果集「林木育種の最前線」より一部抜粋での説明がなされた。北海道育種場からは、森林総合研究所の第三期中期計画に基づいて、平成27年度に取り組む「林木の新品種の開発」、「林木の育種技術の開発」、「林木のジーンバンク事業」の計画及び「種苗の生産及び配布」の5カ年計画について説明された。トピックスとして、材質優良トドマツ品種の開発・国有林採種園における取り組みについて紹介された。道総研林業試験場より、今年度の研究概要についての説明と、トピックスとして、北海道に適したコンテナ苗木生産技術の開発、カラマツ類の効率的な着果促進法の検討などの紹介があった。北海道庁からは採種園整備指針の策定について紹介があった。

(6) 提案・要望事項

北海道山林種苗協同組合や北海道庁から、間伐特措法の特定母樹については現在指定されているグイマツに加え、北海道の主要な造林樹種であるカラマツ、トドマツ、アカエゾマツの開発、原種については採種園造成のニーズに対応した安定供給の確保、公営採種園

* E-mail: mini1275jkd@affrc.go.jp

¹ うえだゆうすけ 森林総合研究所林木育種センター北海道育種場

の整備促進と支援、採種園の着花促進技術の開発と技術指導等を求める要望が出された。さらに、出席者からカラマツは育種苗の割合が少ないため材質に問題があることを踏まえ、育種苗の普及率を向上させるべきとの意見があり、関係機関が今後とも取り組んでいく

ことを確認した。

(7) 情報提供・その他

北海道育種場からは、平成27年9月1日～2日に開催された第53回北海道林木育種現地研究会の概要についての報告があった。